

県連救助隊のセルフレスキュー講習会を受講して

新座山の会 吉田久恵

「登山道から転滑落したら、何ができるか」という文言に惹かれて興味を持ちましたが、私にはあまりなじみのない救助隊が行う講座ということで、受講しようかどうか少し躊躇しました。しかし、「ハイキング中の事故を想定」ということと、受講資格については何も言及していなかったもので、私にも理解できる内容かと思い申し込みました。

机上講習の講義の部分は、とてもわかりやすく、アクシデントが起きた場合どういう手順でセルフレスキューをすすめたらいいのか、よく理解できました。「登山前の準備」もセルフレスキューのひとつと考えるという点は、なるほどと思いました。また、通報について、自力で救助・下山ができる場合も、その旨を最寄りの警察署に通報するなど、具体的に教えてもらえて良かったと思っています。

ロープワークについては、他の受講者はすでによく知っているようで、結び方についてあまり時間を取ってもらえなかったのが、プルーシックしか知らない私にはとても難しく、名前と結び方もよく理解できない状態で、翌日の実技に大変不安が残りました。

翌日の実技講習の前半、搬送法の実技は、色々な方法を教えてもらえ、実際に交代で運んだり運ばれたりして、重さ・乗り心地を体験できてとても有益でした。ストックを使っての担架搬送、ザック・スリングを使っての背負い搬送、ヒューマンチェン法などは、所属の会の会員にも体験してほしいと思いました。知っていれば、いざという時にきっと役立つはずですから。

「1/3 引き上げ法」の実技は、前日のシミュレーションではあまり実感が持てず、ロープワークの理解も不完全でしたので、どうなる事かと思いましたが、実際に現場で、役割を交代し何度も行ううちに理解が深まりました。一度の体験ではどうにもなりません、機会があったら今回のような講習をもう一度二度と受け、完全に身に付けたいと思っています。でもやはり、搬送するのも引き上げるのも大変な労力があるのを実感し、事故の無いよう一層の注意が必要との思いを強くしました。

今回は大変良い勉強になりました。ありがとうございました。